

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	近世小説の「雨月物語」
Author(s)	イングリッド ノフィタサリ,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1992 : 35 - 42
Issue Date	1993-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039327
Right	
Relation	



近世小説の「雨月物語」

イングリッド ノフィタサリ

と事に とれ、た。一、は
 世安も ろさみも、一本つ之魚五
 近慶と あとてあ落一巻鯉巻
 、心。で目見して酒の、の、
 れ乱れた字節をに違、本ち応」
 たの、つ文の手い者本読む夢姓
 打原情なのそいなた読はな「の
 が島世に民、担はい、」すと性
 止はが太は親要のし草物る宿「
 終てたる学概主もを世月あがは
 にいめ文をの活浮雨で茅四
 乱おて求世文学をの集浅巻
 戦にしを近文文人紙を編、
 文の期残学、世の町近双し短は」
 世前を文り近期たと草成る二釜
 中、素のあり政ま人、説成之の、
 い期要代でた化、町子にら巻津る
 1. 長初な時代わ、りて單下か、備あ
 ての的新时代的期あめ名以編」吉で
 っそ動はの年禄で極假、九約」
 上、流々)百元人、、ろはのと論
 なるお人人三、町りばあ」花」福
 権すな、町えばはわえが語菊僧貧
 政幕は見(よえら交言本物「法」
 川開にを民おと彼にと稽月と仏と
 徳が部定庶、たに密学滑雨」
 ・代一安はる、か親文、峰は中
 豊時、の世れ期確と世本、白三頭
 織うと応近わ時、人近情る「之青
 い件一 いるは町人あは巻「

2. 省略

行 三石り、こら は声も か指て人か
 西 安りきるさ 半お顔 し、るこ
 た 仁かみわ今、夜とがた間、に、
 指 いては位はと、い」影った玉山た
 に いる在儀か、じ位のが任れ魔のれ
 の 聞し御盛果、ま円形お奉さ、そわ
 院 とは院、の、さ、異とに刑た間表
 崇、が山て後行、物円れの天、書長豊
 る語 陵れわれ成ってでし徳体し文た時
 あ物の 離覆うい立び中か崇て刑願した
 にす院里になしいさのすぐっ流い起い
 峰わ徳人どにま思え憂をす従を思を聞
 白交崇、如皇さを冷、闇はに院の乱を
 のをに左草上あ養とが、に令徳と大声
) 争山「蔓、う供んうい行命崇うにる
 き論の登、さい念しろな西の、ろ下す
 め的峰ねもかと通人あは、父てな天養、
 さ想白尋えや何のしででる頃つに、供た
) (思は冬さ華、も、の夢いた奪玉ての、
) ね岐い)初れさをてはたはでいを魔し行ま
 み讚会行)そ尊のめといれんて位でを西始
 ら、と四年たのもせあてこかき地血崇。が
 しは靈(八し頃た、たれや淳生ののにた争
 (」亡僧六にたしちわいにはそや室論
 峰峰のの一おしが流没誘、院はて皇かの
 白院人一重えなをがにる朧徳仁、な悪
 1. 「、一(三仕は涙日ります崇雅破ら善
 が、年をおとに 眠が姿しをかはら
 2. 菊 花 花 約 (き っ か の ち ぢ り)
 「 菊 花 の 約 」 は 、 兄 の 弟 の 約 を 結 人 だ 赤 穴 宗 右 衛 門 と 文 部 左 門 が 菊 の

う おびだつ、雄太
 と は学ん思は豊い
 ま に物こと雄、し
 き 村、けだ豊時々
 つ 漁は駆う、た輝
 て 、雄にそにっら
 け み豊家い夢言か
 化 好、のわの女子
 に をと子が方い女
 が 雅こ網。暁在真
 蛇 風のと左、リ、
 た く下と会のにし
 し 優九をやたの約
 恋 に。き。りろっ雄婚
) 年話うた宿ま会豊、
 人 青ろれっ雨女出がら
 い うれ来ぬ、童。子か
 の いら生でたと女だ
 い ことえ。者っ性が真の
 せ 雄押た若ぬ女ぬ。ろ
 * 豊取れいにうてら
 じ はてがな雨いしな
 (「男く大と貨訪う。
 姪 姪ようし途子を恋た
 の のにわ帰女傘家をっ、
 性 性力とさ、真、の子らしへ豪全上がろ事、恐つてがらん老か部てきとわ、はい
 蛇 蛇法雄ふてでら子女もか所のてえ上いあのとと一けかたニ。れ、人驚の変せ子と
 7 「豊そ出こか女真をし役をし捕ちてでそこよ、負し神、たあ夜なは尚にさ富た
 が 上にそた真は刀 てをにを立れ者 の鬼てがさ邪かし のろ雄和形め
 しう日女。さ宮 月は、め婦き、のい出 目れ豊、の埋
 談た一。た積袂 ニ雄と夫とこ早降 日ま。て蛇に 変
 相人がろっ山の 年豊つ姉た「が降 ニやたしのま
 と 役家いまがし 翌、れにっにくく 。ほっ心元ま
 父、のてし室む 。たごさ行の聞し。たやあ決はの
 、てそって神も たっにしにるを激たしうで休やそ
 りし、座れた雄 ね会解ら見いのがし婚を子雄ろ鉢、れ
 ををこ一がたで をやくの、け眩、説と交真、や、れ崇
 とととが人盗む。家ろしき日向ときを性人にて子てさ
 ここと女のにわたのまら、ろを」まと女こそけ女せに雄
 うのっにく上しし姉ともくあ背だ逆こい、まあ真らう豊
 い子行中多のの許ろ子と泣。はのはろしてはが、掘と後
 と女、の、床性くい女っとたやも水あ美て声夜でくいの
 だ真が屋き、のぬで真もめせろちうでう捨し。け深ぬそ
 品、た部びり物と人然もむせまれ太蛇いをかたかをの。
 盗はっ。ひおほこ任突子ぬ婚やらちがとりししお前とた
 が雄思ろりてれろに、女と結子出たや子契、かののこし
 刀豊といぬえこぬ困て真て、女く。ろ富い子あ尚豊ろ死
 太たうて声消、責のっ、えて真よたまは古富を和、出病
 のれこっ雷はもで他行からぬ、へんや雄「は夜。れにも
 そわいな、女々まはにうしす人所込子豊時姿でた入世に
 は捕てに時は人さ雄参感こす一近び女、たう態っにびれ
 郎。れ屋ろれの、豊寺れいを人の飛真月っい状行鉢再哀
 太た連庵すみ所りらはい雄老私に、カ入、絶へ鉢、し
 兄えへのとて役知か雄かつ豊た。淹は数にと気ろ、来か。
 訴家くうっ。と件豊れ一、っめは人ら屋」、こり未しう。

の 中か子荷の快
 左 村畑やが僧
 々、田女人老
 と、とまう
 鬼 のがで。い
 人 たる内りと
 食 ったのがか
 食 ました、駭ろ
 を てめだろぬ
 食 体。れ求人ぬも
 死 話暮を叫隠に
 の ろが宿でに十
 そ せ日の声ち五
 が ぞで夜大こて
 僧 仏村一とちが
 た 成る、「あや
) 愛っはつたつと
 ん 熱も師立来りる
 き をを禅にか走み
 お 思誠庵門鬼つて
 お 維教快ろのび出
 あ はが、れ山転り
 (「師時ら「走
 巾 中禅ろみはびて
 頭 頭庵と違叫っ
 青 青快に家男きも
 8 「を 秋豪る泣を
 を 帰が棒

山あまり、かこ、し
 の。れなを体い明
 こすうにぞ遺吸説
 「ま来気すにをく
 はりて病しう肉長
 人なつた悲大の長
 主に伴し、じもと
 、でをとた同、」
 らい童っしとです
 がおのたま時人で
 なで歳ちいたしの
 め人三いまいおた
 才住、つしてをっ
 すがニができのま
 を様十童人生くし
 事坊は、死がいて
 食おにろう見てべ
 、い時こと童ん食
 う高ののう、だを
 かの因月とわたて
 て徳帰四、せりべ
 っ、年たも腐す
 謝て今のにがに
 。っ、在葬肉い
 左あ行がれ土のつ
 っかへろさもそ、
 あ寺国に病に、て
 師つ、他と看葬れめ
 庵、一日た者、わも
 庵、にろし医うた骨た
 快いささた日うえ一え坊こ
 た出にれ朝が考まおく

しもり隠い。獄を
 戻言きにな地味
 きーしころ「意
 引、をどい、の
 にてか、はし句
 心、何めに白、
 ぬら、主目告て
 粹もて坊はまっ
 純て出「師業言
 のせをす禅悪を
 来う室き、の句
 本泊寝が分ニ
 の、かがろ自の
 様時様と廻に歌
 坊た坊こり師は
 おいおろ禿禿師
 の着、りもは禅
 、寺ろ見幾坊た
 、そろ見幾坊た
 登た、い
 いたに子前の願。山撃せ理
 開、夜様のそとた度を失道
 を行。ろ師、」し再頭えい
 語てだい禅とい山はの消導
 物っんで、す々下師様はの
 の登込っことさ下、禅坊身道
 こをり廻」がいて、お肉仏
 は山座しか光っせ後、のは
 庵、すかのの裁々年て様
 快いささた日うえ一え坊こ
 た出にれ朝が考まおく

杖よお
 禅ろ、
 時とっ
 見たて残
 をあ葉。
 子に草い
 様日かし
 の朝みら
 様かのる
 坊氷骨あ
 お、とが
 。ろ中の
 たこ頭も
 っど青う
 登た、い
 につてと
 山撃せ理
 失道を
 消導の
 坊身道
 肉仏の
 後、は
 年て様
 一え坊こ
 考まおく

金 黄
 のなはしめ
 ると々。集、燭でわた。
 いこ人だをたら精、論ど。
 てる。人金しこのらを
 めすた憎か直と金かと
 とといみ内見た黄たこ
 つ味とと左」めはしろぐ
 れ趣しう「ださ翁動あ稼
 こをと、男かの感係を
 に道みしての目えに関金
 約香ししい見で。ととお
 俊や楽と開識のたこ福の
 。道て男をいろした貧問
 ろ茶べな話しすてしは人
 ろ並卑う珍がっが人な
 あ。武士でたき野い、音立内ニ々
 武士しでとだ物に左、色
 武なをちたのにかの夜や
 いに金けがいたりや日の論
 強う黄きあなとこのそ福
 ろ銭語が大中じをはほにそ。貧
 く金物心ろ屋ま金でのがはたの
 お生ろうえ部ろの欲枕翁にっ教
 ん平か願栄、あ両貧のいうだ儒
 ひは論をみはにする内さ言とや
 「」を貴富時士にな左小のこ論
 論論福富にる武僕単、翁う福
 福福貧は第あ、下、夜に、い貧
 貧貧と内次暇を、はの下のたとの
 「精左、内しのそののたたの教
 のでく左かる台あれ私

中心に「物語」に
 流がくろはあ
 れ、古彼のた
 も典か行。
 の学存為秋
 はに在で成
 何通的あは
 かじにり、夜
 、か、
 、
 作ろ意とあ、
 のあうたでり、
 そでいい受あた
 。家として享でい
 か作たき、家描
 何なっ生れ作そ
 は統て情で夜を
 と統て情で夜を
 上田叙成の世界
 何なっ生れ作そ
 は統て情で夜を
 と統て情で夜を
 上田叙成の世界
 何なっ生れ作そ
 は統て情で夜を
 と統て情で夜を
 上田叙成の世界

